

大

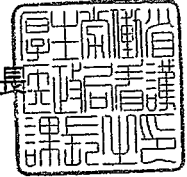
医政看発第0208001号

平成20年2月8日



各都道府県衛生部(局)長 殿

厚生労働省医政局看護課長



「助産師、看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」について

今般、看護基礎教育の充実に関する検討会報告書(平成19年4月16日)において、看護基礎教育卒業時にすべての助産師学生、看護師学生が修得しておく必要がある技術の種類と到達度が明確にされたことを受け、看護基礎教育における技術教育の効果を評価する際の参考指標として、「助産師教育の技術項目の卒業時の到達度」及び「看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」を別添のとおり作成したので御了知願いたい。

なお、保健師教育の技術項目の卒業時の到達度については、今後発出する予定であることを申し添えます。

助産師教育の技術項目と卒業時の到達度

■卒業時の達成度レベル

I：少しの助言で自立してできる II：指導のもとでできる III：学内演習で実施できる IV：知識としてわかる

大項目 (項目数)	中項目		技術の種類	卒業時の到達度	
1. 妊娠期の診断とケア	A. 妊婦と家族の健康状態に関する診断とケア	1	時期に応じた妊娠の診断方法の選択	I	
		2	妊娠時期の診断 (現在の妊娠週数)	I	
		3	妊娠経過の診断	I	
		4	妊婦の心理・社会的側面の診断	I	
		5	安定した妊娠生活の維持に関する診断	I	
		6	妊婦の意志決定や嗜好を考慮した日常生活上のケア	I	
		7	妊婦や家族への出産準備・親準備への支援	I	
		8	現在の妊娠経過から分べん・産じょくの予測と支援	I	
		9	流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊産婦とその家族のケア	II	
		B. 出生前診断に関わる支援	1	最新の科学的根拠に基づいた情報を妊婦や家族に提示	II
		2	出生前診断を考える妊婦の意思決定過程への支援	IV	
2. 分べん期の診断とケア	A. 正常分べん	1	分べん開始の診断	I	
		2	分べん進行状態の診断	I	
		3	産婦と胎児の健康状態の診断	I	
		4	分べん進行に伴う産婦と家族のケア	I	
		5	経膈分べんの介助	I	
		6	出生直後の母子接触・早期授乳の支援	I	
		7	産婦の分べん想起と出産体験理解への支援	II	
		8	分べん進行に伴う異常発生の予測と予防的行動	I	
		B. 異常状態	1	異常発生時の観察と判断および行動	II
			2	異常発生時の判断と必要な介入	
			3	(1)骨盤出口部拡大体位	I
			4	(2)会陰の切開および裂傷に伴う縫合	III
			5	(3)新生児の蘇生	III
			6	(4)正常範囲を超える出血への処置	IV
			7	(5)子癇発作時の処置	IV
			8	(6)緊急時の骨盤位分べん介助	IV
			9	(7)急速遂娩術の介助	II
			10	異常状態と他施設搬送の必要性の判断	IV
3. 産じょく期の診断とケア	A. じょく婦の診断とケア	1	産じょく経過に伴う身体的回復の診断	I	
		2	じょく婦の心理・社会的側面の診断	I	
		3	産後うつ症状の早期発見と支援	II	
		4	じょく婦のセルフケア能力を高める支援	I	
		5	じょく婦の育児に必要な基本的知識と技術支援	I	
		6	新生児と母親、父親、家族のアタッチメント形成の支援	I	
		7	産じょく復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア	I	
		8	1か月までの母子の健康状態の予測	I	
		9	生後1ヶ月間の母子の健康診査	I	
		10	1ヶ月健診の結果に基づく母子と家族の支援	I	
		11	母乳育児に関する母親に必要な知識の提供	I	
		12	母乳育児に関する適切な授乳技術、乳房ケア	I	
		13	母乳育児を行えない/行わない母親への支援	I	
		14	母子愛着形成の障害、児の虐待ハイリスク要因の早期発見	I	

大項目(項目数)	中項目		技術の種類	卒業時の到達度	
3. 産じょく期の診断とケア	B. 新生児の診断とケア	1	出生後24時間までの新生児の診断とケア	I	
		2	出生後1ヶ月までの新生児の診断とケア	I	
	C. ハイリスク母子のケア	1	両親の心理的危機への支援	II	
		2	両親のアタッチメント形成に向けた支援	I	
		3	NICUにおける新生児と両親への支援	IV	
		4	次回妊娠計画への対応と支援	II	
4. 女性のケア	A. 思春期女性の支援	1	思春期特有の悩みや相談への対応	IV	
		2	妊娠可能性のある思春期男女に健康な周産期を迎えるための学習や支援	IV	
		3	年齢に応じた身体発育状態のアセスメントと支援	IV	
		4	二次性徴の発現に遅れがある時の医学的介入の必要性のアセスメント	IV	
		5	成長発達に関係する生活習慣のアセスメントと支援	IV	
		6	思春期女性をとりまく家族や教師に対する支援	IV	
	B. 女性とパートナーに対する支援	1	家族計画(受胎調節法を含む)に関する選択・実地の支援、評価	I	
		2	妊娠に関する利用機関の紹介と継続的援助	IV	
		3	性と生殖に関する健康への支援	IV	
		4	DV(性暴力等)による被害を予防するアセスメント	IV	
		5	生活自立能力のない男女に対する妊娠継続・出産・育児に必要な情報提供と支援	IV	
	C. 不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援	1	不妊治療をうけている対象の理解と支援	IV	
		2	不妊検査・治療の選択への支援	IV	
		3	治療に関する受容と自己決定への支援	IV	
		4	不妊治療に伴う検査や治療の有効性等に関する情報提供	IV	
	D. 中高年女性に対する支援	1	中高年の性に関する健康障害の予防と日常生活上の支援	IV	
		2	中高年女性の健康管理とQOLへの支援	IV	
		3	加齢に伴う身体機能のアセスメント	IV	
		4	精神心理面のアセスメント	IV	
		5	性生活に関するアセスメントと必要な支援	IV	
		6	この時期に発生しやすい徴候のアセスメントと症状緩和のためのケア	IV	
	E. 女性の性感染症に関する予防と支援	1	母子感染予防の啓発活動	IV	
		2	性感染症の罹患のアセスメント	IV	
		3	検査結果に応じた相談と継続支援	IV	
		4	パートナーの理解と支援を得るための援助	IV	
		5	性感染症予防のための地域への啓発活動の参画	IV	
	F. 月経障害を持つ女性に対する支援	1	月経状態のアセスメントと医学的治療の必要性の判断	I	
		2	月経障害を緩和するための指導と日常生活の支援	II	
	5. 出産・育児期の家族ケア		1	出生児を迎えた生活環境や生活背景のアセスメント	I
			2	家族メンバー全体の健康状態と発達課題のアセスメント	I
3			新しい家族システムの成立とその変化のアセスメント	II	
4			家族間の人間関係のアセスメントと支援	II	
5			地域社会の資源や機関を活用できる支援	II	
6. 地域母子保健におけるケア		1	保健・医療・福祉関係者との連携	II	
		2	地域の特性と母子保健事業のアセスメント	II	
		3	消費者グループのネットワークへの参加とグループ支援	IV	
		4	災害時の母子への支援	IV	

なお、この表は助産技術に限定しているため、卒業時の到達度(教育内容)としては、「助産業務管理」および「専門職としての自律性」の項目群がこれに加わる。

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

■卒業時の到達度レベル

I：単独で実施できる II：看護師・教員の指導のもとで実施できる III：学内演習で実施できる IV：知識としてわかる

項目	技術の種類	卒業時の到達度
1.環境調整技術	1 患者にとって快適な病床環境をつくることができる	I
	2 基本的なベッドメイキングができる	I
	3 臥床患者のリネン交換ができる	II
2.食事の援助技術	1 患者の状態に合わせて食事介助ができる（嚥下障害のある患者を除く）	I
	2 患者の食事摂取状況（食行動、摂取方法、摂取量）をアセスメントできる	I
	3 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I
	4 患者の栄養状態をアセスメントできる	II
	5 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II
	6 患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	II
	7 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II
	8 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III
	9 電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV
	10 患者の食生活上の改善点がわかる	IV
3.排泄援助技術	1 自然な排便を促すための援助ができる	I
	2 自然な排尿を促すための援助ができる	I
	3 患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I
	4 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I
	5 ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II
	6 患者のおむつ交換ができる	II
	7 失禁をしている患者のケアができる	II
	8 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II
	9 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III
	10 モデル人形にグリセリン浣腸ができる	III
	11 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV
	12 基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	IV
	13 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	IV
4.活動・休息援助技術	1 患者を車椅子で移送できる	I
	2 患者の歩行・移動介助ができる	I
	3 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I
	4 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I
	5 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I
	6 臥床患者の体位変換ができる	II
	7 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II
	8 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II
	9 目的に応じた安静保持の援助ができる	II
	10 体動制限による苦痛を緩和できる	II
	11 患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II
	12 患者のストレッチャー移送ができる	II
	13 関節可動域訓練ができる	II
	14 廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	IV
5.清潔・衣生活援助技術	1 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I
	2 患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I
	3 清拭援助を通して、患者の観察ができる	I
	4 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I
	5 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I
	6 患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I
	7 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I
	8 入浴の介助ができる	II
	9 陰部の清潔保持の援助ができる	II
	10 臥床患者の清拭ができる	II
	11 臥床患者の洗髪ができる	II
	12 意識障害のない患者の口腔ケアができる	II
	13 患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II
	14 持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II
	15 沐浴が実施できる	II

項目	技術の種類	卒業時の到達度
6.呼吸・循環を整える技術	1 酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I
	2 患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I
	3 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I
	4 末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる	I
	5 酸素吸入療法が実施できる	II
	6 気道内加湿ができる	II
	7 モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III
	8 モデル人形で、気管内吸引ができる	III
	9 モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III
	10 酸素ポンプの操作ができる	III
	11 気管内吸引時の観察点ができる	IV
	12 酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる	IV
	13 人工呼吸器装着中の患者の観察点ができる	IV
	14 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点ができる	IV
	15 循環機能のアセスメントの視点がわかる	IV
7.創傷管理技術	1 患者の褥創発生の危険性をアセスメントできる	I
	2 褥創予防のためのケアが計画できる	II
	3 褥創予防のためのケアが実施できる	II
	4 患者の創傷の観察ができる	II
	5 学生間で基本的な包帯法が実施できる	III
	6 創傷処置のための無菌操作ができる（ドレーン類の挿入部の処置も含む）	III
	7 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	IV
8.与薬の技術	1 経口薬（パッカル錠・内服薬・舌下錠）の服薬後の観察ができる	II
	2 経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II
	3 直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II
	4 点滴静脈内注射をうけている患者の観察点ができる	II
	5 モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III
	6 点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III
	7 モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III
	8 モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III
	9 モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III
	10 輸液ポンプの基本的な操作ができる	III
	11 経口薬の種類と服用方法がわかる	IV
	12 経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV
	13 中心静脈内栄養をうけている患者の観察点ができる	IV
	14 皮内注射後の観察点ができる	IV
	15 皮下注射後の観察点ができる	IV
	16 筋肉内注射後の観察点ができる	IV
	17 静脈内注射の実施方法がわかる	IV
	18 薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV
	19 静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV
	20 抗生物質を投与されている患者の観察点ができる	IV
	21 インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV
	22 インシュリン製剤を投与されている患者の観察点ができる	IV
	23 麻薬を投与されている患者の観察点ができる	IV
	24 薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む）方法がわかる	IV
	25 輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点ができる	IV
9.救命救急処置技術	1 緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I
	2 患者の意識状態を観察できる	II
	3 モデル人形で気道確保が正しくできる	III
	4 モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III
	5 モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III
	6 除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III
	7 意識レベルの把握方法がわかる	IV
	8 止血法の原理がわかる	IV

項目		技術の種類	卒業時の到達度
10. 症状・生体機能管理技術	1	バイタルサインが正確に測定できる	I
	2	正確に身体計測ができる	I
	3	患者の一般状態の変化に気づくことができる	I
	4	系統的な症状の観察ができる	II
	5	バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II
	6	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II
	7	簡易血糖測定ができる	II
	8	正確な検査が行えるための患者の準備ができる	II
	9	検査の介助ができる	II
	10	検査後の安静保持の援助ができる	II
	11	検査前、中、後の観察ができる	II
	12	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III
	13	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	IV
	14	身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV
11. 感染予防技術	1	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗いが実施できる	I
	2	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の装着ができる	II
	3	使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II
	4	感染性廃棄物の取り扱いができる	II
	5	無菌操作が確実にできる	II
	6	針刺し事故防止の対策が実施できる	II
	7	針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	IV
12. 安全管理の技術	1	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I
	2	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I
	3	患者を誤認しないための防止策を実施できる	I
	4	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II
	5	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II
	6	放射線暴露の防止のための行動がとれる	II
	7	誤薬防止の手順にそった与薬ができる	III
	8	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV
13. 安楽確保の技術	1	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II
	2	患者の安楽を促進するためのケアができる	II
	3	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	II